

音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設

基本設計概要書

01	設計コンセプト	P 2
02	計画概要	P 3
03	配置計画	P 4
04	平面計画	P 5-10
05	断面計画	P 11
06	施設外観	P 12
07	ホール・文化芸術エリア	P 13
08	災害文化エリア	P 13
09	構造計画	P 14
10	設備計画	P 14
11	音響計画	P 15

仙台市

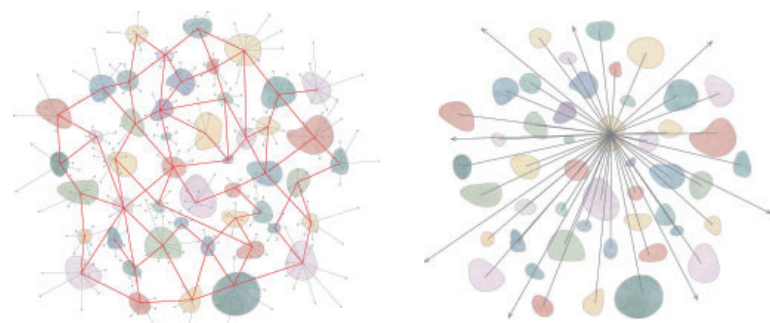
設計者 藤本壮介建築設計事務所

■コンセプト:たくさんの/ひとつの響き

多様な記憶や想い、活動が共存し響き合うこと(たくさんの響き)と、それらが時にはひとつにつながること(ひとつの響き)で連鎖していき、人と人、過去と未来が結びつく。文化芸術と災害文化が多層的に交わる空間の中で、まちを豊かで強靱にする仙台ならではの文化を創造し、世界に向けて発信する。

吹抜け空間は、誰もが気軽に訪れられる憩いの場であり、文化芸術と災害文化の融合の象徴的空間として、特別なイベントにおいて人々をつなぐ役割を発揮する。

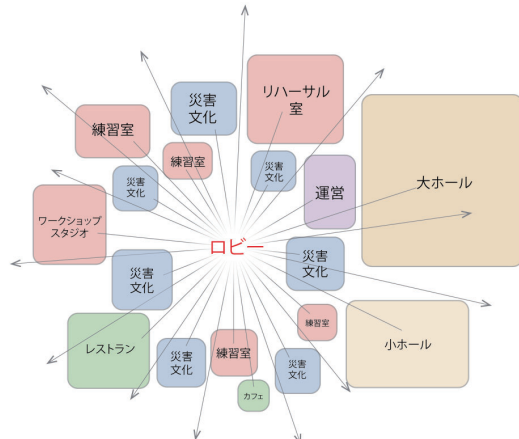
多様な記憶と活動がつながる場所



たくさんの思いが共存する
仙台の多様な音楽・演劇活動が
共存する

ある特別な瞬間に一つになる

様々な諸室・機能・居場所がロビーの吹抜に面して1つに繋がるような配置計画



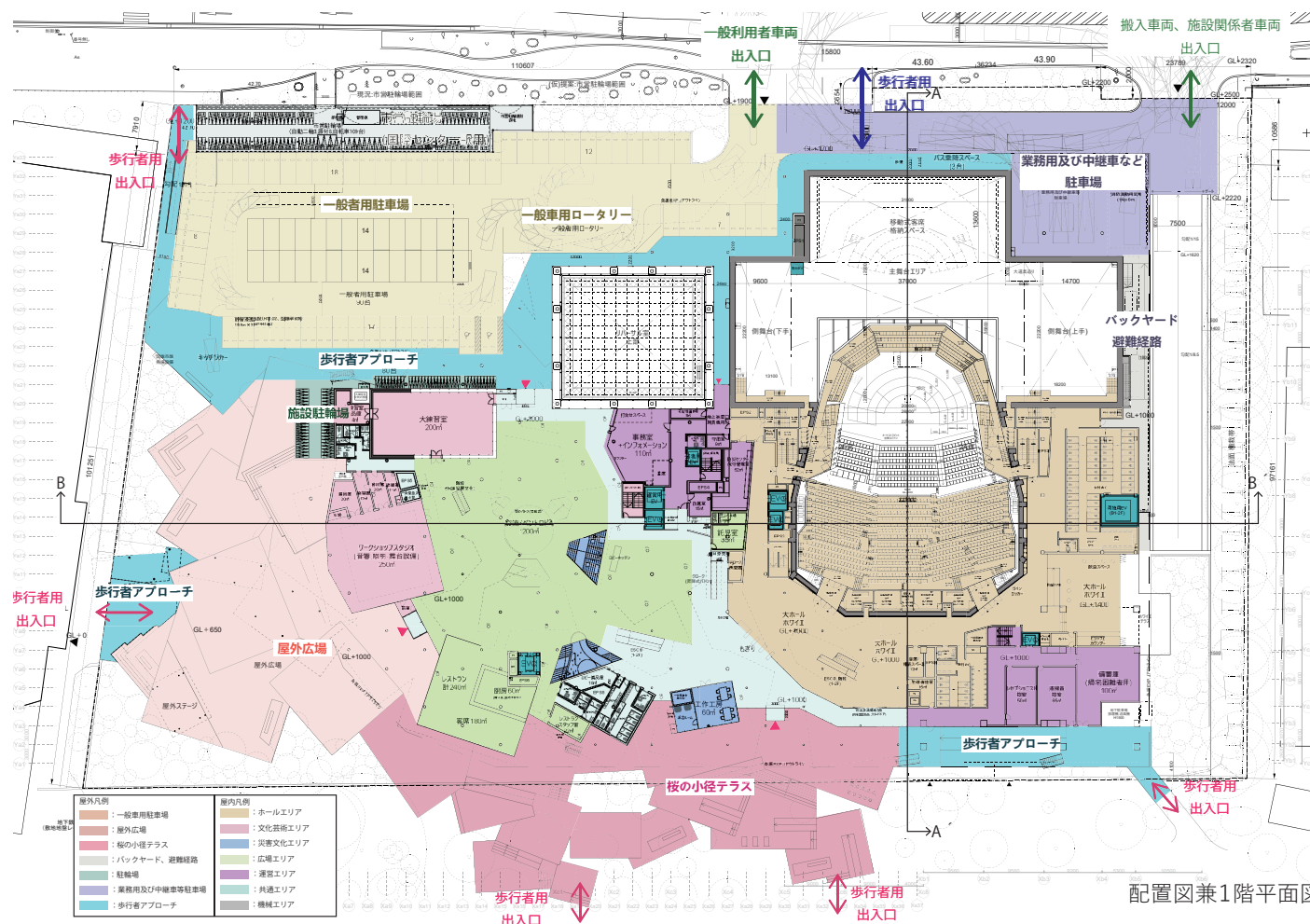
文化芸術や災害文化の活動をする人、鑑賞や見学に訪れる人、施設でゆっくりと過ごす人など、多様な目的や思いを持った、たくさんの人々が共存できる場所がある。そうした活動の息づかいを互いに感じられる空間とすることで、緩やかなつながりが日常的に生まれる。



ロビーエリア

■平面計画

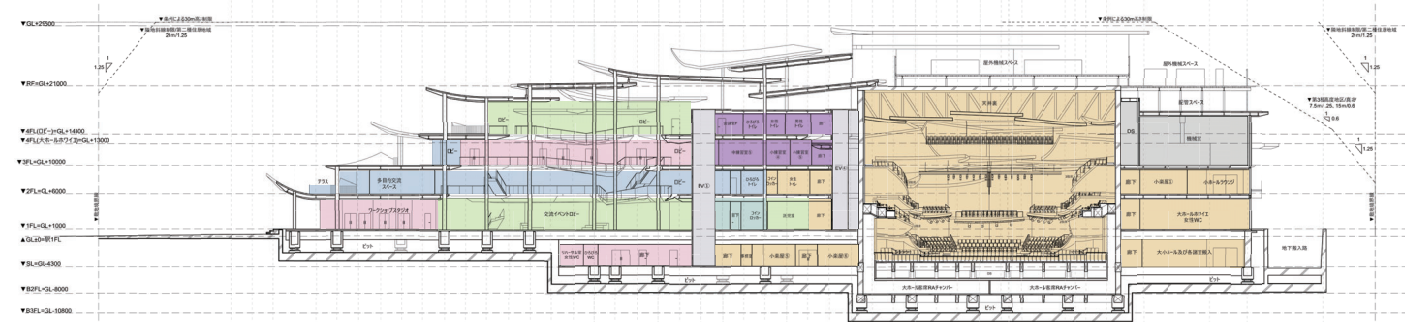
- ・駅に近い南側に屋外広場、敷地の中央に複合施設を中心とするロビーを配置し、ヴォリュームのある大ホールは北側に配置する。
- ・ロビー吹抜に施設のあらゆる諸室が面する建築計画とし、屋内外の見通しがよく、また多様な活動が繋がる平面計画とする。



配置図兼1階平面図

■断面計画

- ・国際センター駅側(南側)から見て、北側にいくにつれて屋根が上がっていくような断面とし、駅からの来館者への圧迫感を低減する
- ・ロビーの吹抜を取り囲むように、災害文化、文化芸術、運営エリアを配置し、多様な居場所・活動が共存できる立体的な空間を計画する



南北断面図

1. 敷地概要

計画地	: 仙台市青葉区青葉山2番1、2番4、2番5(地番)
敷地面積	: 18819.07 m ²
都市計画	: 都市計画区域、市街化区域
用途地域	: 第二種住居地域、建築基準法第22条指定区域(防火、準防火地域以外の仙台市全域)
特別用途地域	: 文教地区
高度地区	: 第三種高度地区
その他の区域区分等	: 埋蔵文化財の包蔵地(一部)、景観重点区域、第一種、第二種環境保全区域(一部)、水質保全区域
建ぺい率	: 56.39%
※都市計画において定められた建ぺい率→60%、第一種環境保全区域の建ぺい率→50%(各区域の基準値を面積按分)	
接道道路	: 市道濼橋通線、道路幅員10.0m
鉄道近接施工	: 要協議(実施済)

2. 建物概要

主要用途	: 劇場
建築面積	: 10,613.10 m ²
延べ床面積	: 28,924.47 m ²
構造	: 鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造
階数	: 地上4階、地下2階
最高の高さ	: 29.50m
耐震安全性の目標	: 構造体 → II a 類

3. 都市基盤状況

電気	: 東北電力ネットワーク管内(周波数50Hz、高圧受電引込を協議済)
ガス	: 仙台市ガス局管内
上水道	: 上水道 → 本管口径300mm、取出し口径75mm
下水道	: 汚水・雑排水 → 合流式前面道路下水道本管へ接続 雨水分流 → 国際センター駅北側植栽内の雨水ますに接続し広瀬川へ放流する

4. 音響計画

音響計画に定める音響条件を満たす計画としている。

【騒音防止計画】

- ・ 躯体、内装の遮音層により、屋外と屋内、諸空間の騒音を防止。
- ・ 特に小ホール、リハーサル室、練習室については音響ガイドラインに記載のある防振遮音構造を採用する。
- ・ 国際センター駅からの地下鉄振動音に対しても、距離減衰と免震デバイスによる防振対策を行う。
- ・ 室内騒音値を低減するため、空調設備による騒音への対策を行う。

【室内音響計画】

- ・ 大ホール、小ホール、リハーサル室については、各室に求められる響きの特性を実現するため、部屋の大きさ、天井の高さ、壁の向き、仕上げ重量、表面形状などを検討している。
- ・ 3次元シミュレーションによる反射音解析を行い、室形状を検討している。
- ・ 大ホールのオーケストラひな壇は、良い響きになるための平面形状、高さ、素材選定をしている。
- ・ 残響可変装置を計画し、電気音響設備を使用するポップス等の催し物に対応する。

【舞台音響設備計画】

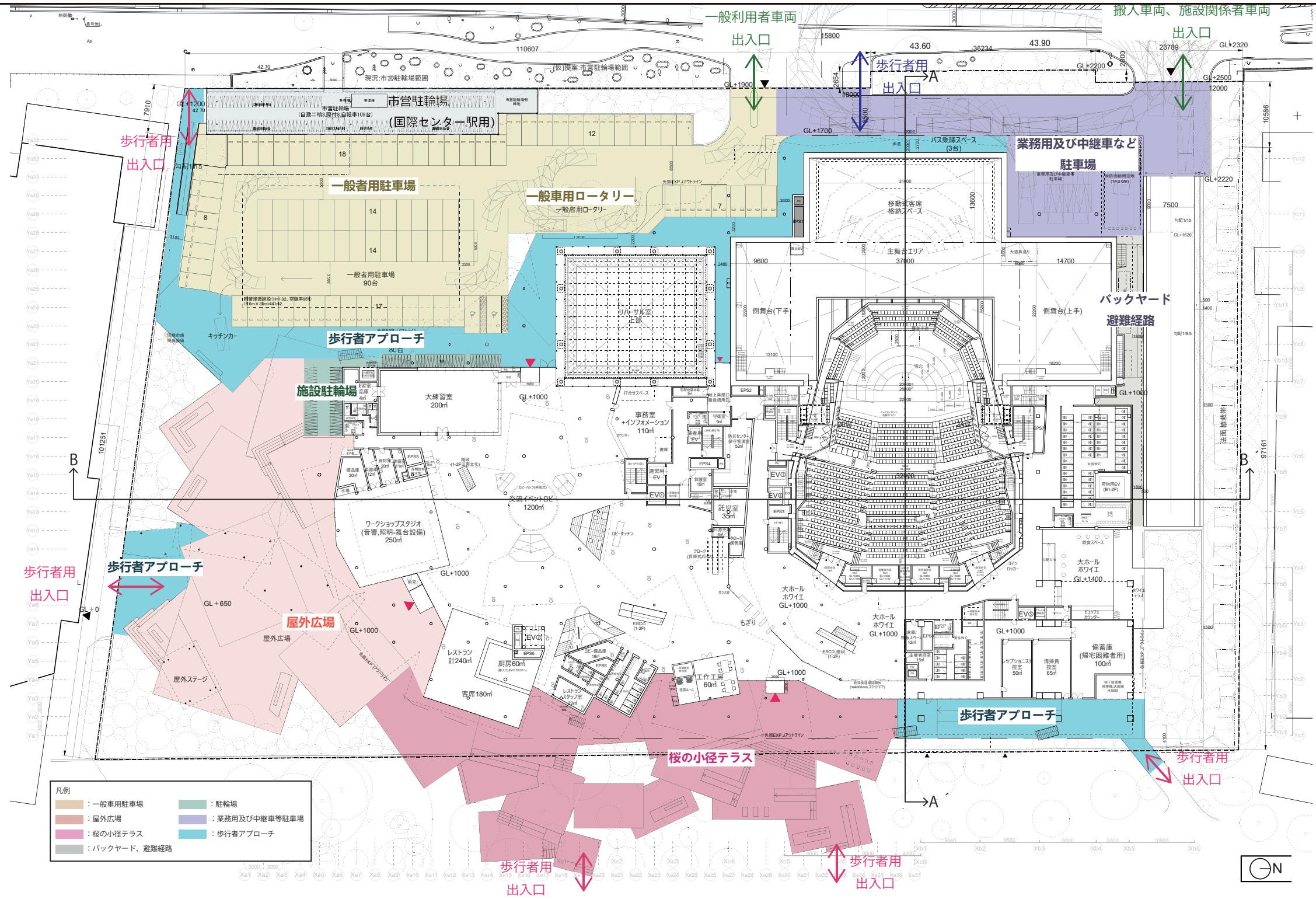
- ・ 本設計図書において記載



広域案内図

出典：国土地理院ウェブサイト





■ 建築配置

- 敷地に合わせ建物を南北方向に少し長い形状の計画とし、南東側をメインエントランスとする。
- 一般用駐車場と一般用ロータリーを建物南西側に配置し、車利用者が建物にアプローチしやすい計画とする。
- 内部空間と外部空間を連続的に利用できるよう、建物東に桜の小径テラス、南側に屋外広場を計画する。
- 南側に配置したロビーの屋根を地上に向けて段々状に低く抑えつつ、大ホールのフライタワーを北西側に配置することで、敷地南側の国際センター駅や屋外広場、敷地東側の広瀬川への圧迫感を低減しつつ開かれた計画とする。

■ 歩行者用の敷地への出入り口

- 利用者用のエントランスは南、西、東側に一か所ずつ、施設関係者(管理者や公演関係者)のエントランスは西側に一か所設置し、利用者動線と管理者動線を明確に区分する。主要な利用者のエントランスは国際センター駅の東側出入口に近い、屋外広場に面する南側のエントランスとする。

■ 車寄せ、駐車場

- 一般利用者用の駐車場出入口を敷地の西側中央に計画する。
- バス及び搬入車両、施設関係者車両の出入り口を敷地の北西側に計画する。
- 身障者用駐車場は建物西側のエントランスにもっとも近接する位置に計画する。

■ 駐輪場

- 建物南西角に施設用駐輪場を計画する。
- ※南西の市営駐輪場は敷地外であり、本施設とは別の管理を想定。